

群馬工業高等専門学校環境都市工学科 正会員 田尻 要
前橋工科大学工学部建設工学科 正会員 湯沢 昭

1.はじめに

群馬県は、自家用車保有率が全国でもトップクラスであり、なかでも前橋市は世帯あたりの自家用車保有数が、1.24 台(全国平均の約 1.5 倍)という車社会を形成している。市民の主要な移動手段が自家用車に依存していることから、中心市街地における交通渋滞、排気ガスによる空気汚染、交通弱者の危険性増大など、交通・環境に関する諸問題が顕在化する一方で、商業地や住宅地のスプロール化が進行し、疲弊した中心市街地の活性化が望まれている。現在、これらの諸問題の解決を目指して、群馬県や前橋市は総合的な交通政策や活性化政策の検討や実行を積極的に進めており効果が期待されている。このような状況のなか、前橋市では、市民が主体となり行政と共同で、都市交通問題に関する現状の整理と課題を抽出するとともに、改善が期待されるテーマについて検討を行い、問題意識の高揚と具体的な対応方策を提案することを目的にワークショップが催行された。

2.都市交通ワークショップの概要

ワークショップに先立ち、前橋市では都市交通に関する市民アンケート調査¹⁾を実施している。この結果、主要な交通手段は回答者の約 50 %が自動車を挙げている。また、現状の都市交通に関する諸問題の解決策として、回答者の多くは公共交通を充実させることを期待しており、なかでも LRT(Light Rail Transit)の導入や既存するバス運行の改善が挙げられている。環境問題に対する危機意識も強く、利便性が高い反面、環境負荷の大きな自動車に依存することの弊害を挙げる回答者も少なくない。さらに、中心市街地の活性化や交通弱者への配慮に関する対応方策の充実に対する期待も大きい。

このアンケートの結果を受け、前橋市では「ぼくらはもっと自由に移動したい～前橋の都市交通のこれからを考えよう」をメインテーマに、都市交通やまちづくりに関するワークショップが催行された。ワークショップは、平成 11 年 8 月から 10 月までの土曜日の午後に、前橋市役所内の会議室で 6 回開催された。参加者は、前橋市の広報誌などで事前に公募されたのち抽選による 48 名が、表-1 に示す 6 項目の課題についてグループを編成(1 グループ 7 ～ 10 名)して検討を行った。それぞれのグループは、課題に対して独自のテーマ(グループ名称)を設定し、中心市街地の視察や鉄道・バスの体験乗車、ならびにアンケートの実施などにより検討のための資料を収集した。

表-1 ワークショップにおける検討課題

グループ	検討課題	グループテーマ(グループ名称)
1	車社会からの転換策	自動車保有率No.1からの挑戦
2	中心市街地の活性化	学園都市
3	交通弱者への配慮	かめさん
4	環境問題への対応	ECM・エコ前橋
5	都市の交通システム	皆楽都市(かいらくとし)
6	交通利便性の向上	交通利便性の向上

キーワード：都市交通、住民参加、意識調査

連絡先：〒 371-0845 前橋市鳥羽町 580 電話 027-254-9179 FAX027-254-9022

3.検討結果と提案

各グループで設定したテーマについて、検討内容とそれに基づく提案の概要を以下に示す。

[車社会からの転換策]

自動車から他の交通手段へ転換する場合の、転換先の交通手段とその優先順位、ならびに転換するために期待する具体的な方策とその優先順位を、アンケート調査によって把握した。その結果、市民が自動車から転換を考えている交通手段は、優先順位が高い順序から①自転車、②バス、③鉄道、④ LRT であり、自転車交通に関する方策の優先的な実施の必要性を提案した。また、具体的な方策として自転車専用道の整備など、自転車利用の安全性と利便性の向上を提案した。

[中心市街地の活性化]

前橋市の中心市街地は、大型店舗などの商業施設の誘致は困難である現状を鑑み、現在前橋市郊外に位置する前橋市立前橋工科大学を中心市街地に移転し、大学を核とした学園都市の構想を検討した。大学の全面移転は困難であるとしても、研究室の一部をサテライトキャンパス形式による誘致などを提案した。中心市街地に学生が増加することで、街の活性化が期待されると考えられる。

[交通弱者への配慮]

自動車を運転できない若年者および高齢者など交通弱者のための公共交通の確保と、公共交通に関する施設のバリアフリー化を検討した。市街地循環バス路線の導入や、移動困難者のための送迎ボランティアによる交通手段の確保、ならびにバリアフリー化によるモビリティの向上を提案した。

[環境問題への対応]

環境負荷の増大の原因のひとつとして、交通手段を自動車に大きく依存していることが挙げられる。そこで、中心市街地における自動車流入を制限し、現存する駐車場を削減し公共交通の充実を提案した。また、市街地において多量に消費されるエネルギーを、可能な限り自然エネルギーへ転換することを提案した。

[都市の交通システム]

都市の居住者全員が都市生活を楽しむことができる、すなわち目的の場所に容易に移動できる交通システムの構築を検討した。既存の公共交通機関を整理するとともに有機的な結合を図り、バリアフリー化を推進し、コミュニティの醸成が期待できるような"道"の再生を提案した。

[交通利便性の向上]

前橋市内および前橋市にアクセスする現存の公共交通機関について、現状の整理と問題点の抽出を行い、利便性の向上が期待できる方策を検討した。バスについては、バスの運行状況が容易に把握できる表示装置の設置や、系統を整理した番号などをバスに明示することを提案した。鉄道は、現状のダイヤの頻密化ならびに JR と私鉄の相互乗り入れと運賃体系の改善を提案した。

これらワークショップで検討した結果と提案は、平成 11 年 10 月 30 日に前橋市街中心部の"国際交流広場"において一般に公開し、同席した前橋市長に提案書を提出した。

4.おわりに

今回のワークショップは、前橋市民の都市交通に対する関心の高さがあらためて明らかになり、市民の意識や要望を具体化し行政に提案することができる貴重な企画となった。しかしながら、都市交通問題の規模の大きさと比較して検討できるテーマは限られており、継続して検討が必要な課題も山積していることから、今後のワークショップの活動が期待される。

謝辞 最後になりましたが、ワークショップの実行に対するご助成やご支援、また本報の整理にあたり貴重な資料ならびに有意義なご意見をいただきました、前橋市市長公室交通政策課ならびに企画調整課、群馬県土木部都市計画課まちづくり推進室ほか、関係各課の皆様方に厚く御礼申し上げます。

参考文献

- 1)前橋市：市民アンケート調査報告書,1999.
- 2)前橋市：都市交通アンケート報告,広報まえばし(平成 11 年 7 月 1 日号),1999.